

令和5年度 学校関係者評価書

学校園名 附属高等学校

1 学校関係者による評価

領 域	学校関係者による評価と今後の課題
学校運営	<p>評価：B</p> <p>ICTの活用等でハイブリッド学習環境（いつでもどこでもどんな状態でも学習できる）を推進している事は評価できるのでさらに継続してほしい。ICTの活用で、学校からの連絡が直接保護者に届く事は、ペーパーレス化にも寄与し評価できるので、今後も継続してほしい。保護者や本校に入学希望を持つ方への学校公開（授業、行事、部活動）の機会を拡充してほしい。</p> <p>ICTの活用や外部のリソースの活用などにより、学校業務の効率化を進め教員の負担軽減を進めている点は評価できるので、今後も継続していただきたい。</p>
教育活動	<p>評価：B</p> <p>教科教育については、SSH 探究活動を柱に本物教育を充実させている。またカリキュラムについても現代的な教科指導を念頭に置いて深化させている。進路指導についても様々な方策を打ち出しており、充実した対策・支援が実施されている。夏の勉強会等では、受験期の3年生だけでなく1.2年生を対象とした、苦手科目を克服する講座等の充実も検討してほしい。</p> <p>また、理系、文系というような枠に囚われず、現代社会を生き抜く上で必要となる教養を幅広く身につけられるような教育活動を期待する。</p>
研究活動	<p>評価：B</p> <p>3期目のSSHに認定された事は高く評価できる。今後の5年間、SSH活動のさらなる充実が望まれる。いわゆる理系でないテーマでの探究活動の支援も必要である。様々な研究を行っているので、その成果の発信をさらに積極的に進めていただきたい。</p>
学生の教育・支援活動	<p>評価：A</p> <p>教育実習においても、高校教員が大学へ赴いて授業をするなど、大学と連携した教育がなされている事は評価できる。また、ICT の活用も進んでおり評価できる。教育実習生が本校での教育実習が良かったと実感できるような指導を今後も継続していただきたい。</p>
社会貢献活動	<p>評価：B</p> <p>社会貢献活動として、防災活動およびボランティア活動による地域貢献、特別支援学校におけるインクルーシブ教育の実践等が行われている。コロナにより行うことができない活動もあったが、今後はそれらを復活させ、さらに多くの生徒が活動に参加することが望まれる。</p>

2. 評価の実施概要

- ・令和5年度学校経営計画の重点目標及び評価項目の取組の（学校からの）説明
- ・学校自己評価の結果及び、今後の改善方策並びに評価項目などのあり方等についての評価
- ・学校関係者評価書の取りまとめ

3. 学校関係者評価委員会 開催日 令和6年3月1日（金） 11:30～13:00

学校関係者評価委員：小玉剛，武田佐知子，町井研士，桃崎有治，飯塚和道，川口浩子（PTA会長）

校長：大野弘 副校長：坂井英夫 主幹教諭：大谷晋，平野正彦，安井崇